で終わりですからね。出水網というのは、四手の小さいもので、狙うのは鯉です。というのは、鮒とか他の魚でも、五月に入ると値がなくなってしまうんですよ。卵を持っていないし、うまくないんですね、ところが鯉というものは節がないんです。いつでもおいしいんです。釣をするのも網でとるのも楽しいんですが、自分で獲った魚を食べるのも楽しみでしたからねー。だから五月に入ると、出水網で鯉を獲るんですよ。ところが、その頃になるとヤマベの二十匁級というのが入りましてね、十二三センチもあって、尾ヒレが素晴らしく長くて実に見事なものでした。

これが終わると、もう網はやらないです。秋になると延縄（はえなわ）を仕掛けました。これも又桜川では鯉やうなぎをねらいました。鯉の餌は、さつまいも、うなぎは蝦を使いましてね、舟で百間、二百間の縄を引っぱりまして、一間毎に枝を出して餌を針に仕掛けるんですこんなに長いと障害物にひっかかって、どうにもならないと思うかもしれませんが、そこは手慣れたもんで、うまく外れんですね。そしてこれを一晩おいて、翌朝あげるんです。

又秋にはナマズとりがありました。これはタカッポウと言うんです。竹の筒を、一メートル位の長さにして、節を抜いてしまいましてね。そしてそれを二本位づつ縛って春のうちから水の中に沈めておくんです。そうすると、秋口に入るころには、竹は水を吸って、水に浮かなくなるんです。そして秋になったら、獲っておいた所に置くんです。これは舟であるいて、目印をつけておくんですが、獲る所は淵になっている所で、底が硬い土になっている所ですね。筒のつり上げ方はこつがあるのですが、そこにはナマズとかうなぎが入っていて、ナマズが入っていない時にはヒガイの集団が入っていました。最近は誰もこんなことはやっていませんがね。第一、ナマズが居ませんからね。蝦より早く居なくなりました。どうして居なくなったかわかりませんが、誰も研究なんかしないんじゃないですか。

冬は巻網です。

これは、天然にあるくいだとか、深いふちに魚が寄っ